



2022年 第一回定例会 一般質問から

団地の空き家解消へ 市と大学の連携を進める

団地の空き家の増加が大きな社会問題となっています。特に、小山田桜台団地の空き家率は40%を超え、市の中でも群を抜いています。空き家の増加に伴い、地元商店での消費が減り、いわゆる「シャッター通り」と呼ばれる閉鎖店舗も増えています。

こうした状況を改善するため、山下てつやは町田市と大学との連携を訴えています。“知の宝庫”である大学の協力を得て、団地の活性化を図っていきたいと思います。例えば、古民家カフェなど、レトロ感たどようスペース作りなど、学生の知恵を団地の空き家対策に結び付けていきたいと思っています。

山下てつやは定例議会で質問し、市からは「**団地事業者の取り組みに加え、団地事業者と大学との連携を仲介するなど、団地活性化への取り組みを進める**」との答弁を得ました。これまでも、URが小山田桜台団地の自治会と協議して、ペット飼育可の号棟を作るなどの案が検討されており、さらに、学生向けのシェアハウスなども推進していきたいと思っています。市が団地と大学を連携させる軸となり、3者で計画を進められるよう、全力を尽くしてまいります。



コロナで保育園が休園 代替保育で支援を

コロナ第6波は、これまで以上に子育て世代に影響を与えました。感染力の高いオミクロン株の流行に加え、感染者のみならず、濃厚接触者も行動制限期間を設けられることから、保育所など幼児保育に携わる施設の休園が相次いで起こり、社会問題となりました。このような場合、ひとり親にとっては、子どもを保育所に預けることができず、仕事に行けません。そこで町田市では、**厚労省が自治体に財政支援をすることになった「代替保育」の体制整備をいち早く実施**しました。

「代替保育」は、感染拡大の対応策として実施されたものですが、**子育て世代に代替保育があることでの安心感を与える意味でも、恒久化すべきである**と山下てつやは議会で訴えました。

日本は自然災害の多い国であり、感染症以外でも、保育所を含む通常の施設が一定期間、閉鎖されることは今後も十分に考えられます。そうした事態に備えるためにも、子育て家庭への支援強化につながります。市は、「公立保育園での受け入れ体制の整備など、子育て家庭を支える仕組みを継続していく」と約束しました。



モノレールのルート変更でも 街づくり計画は変わらず

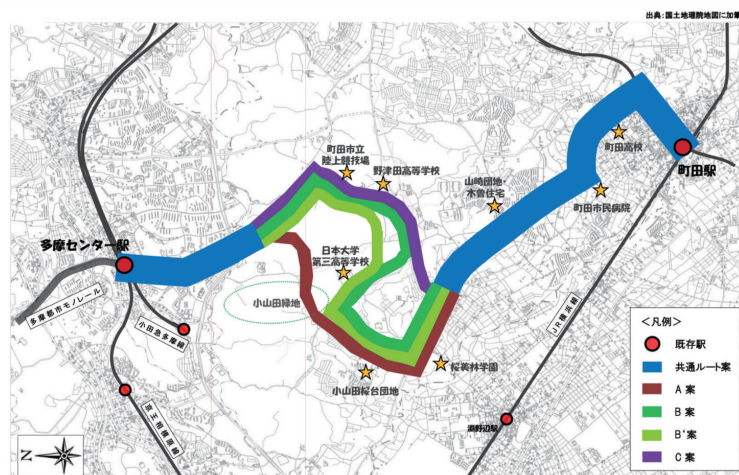
モノレール延伸ルート変更で町開発計画への影響を質問
東京都が主催するルート検討委員会で「多摩モノレール」の
ルートが検討され、既存案であった小山田緑地周辺から小山
田桜台団地までのルート（**図のA案**）が変更され、町田市立陸
上競技場、野津田高校方面に迂回し、日本大学第
三高校付近を経由して小山田桜台に向かうルート
（**図のB案**）に決定されました。

これまで町田市は、多摩モノレールのルートと同時
に、街づくり計画を考える必要があると、**小山田
緑地－小山田桜台周辺の街づくり計画を予定して**
いました。

山下てつやは、この計画を予定通りに進めるのか
と議会で質問し、市から「**街づくり計画は予定通り
推進する**」との答弁がありました。



検討ルート案



※ルート図はイメージであり、詳細については今後深度化を図る

予算質疑 子どもクラブ整備事業

子どもクラブ(小山田)整備事業について

(1) 資材高騰への対応は？

建設工事に関する設計内容の変更を行い、建物の柱などに使用する木材を、調達可能な規格に変更。木材等の調達価格については、東京都が定める単価を用いて予算計上する。

(2) 開館まで長期化への対応は？

子どもクラブの活動を知っていただくための学習会や、施設の愛称を考えるワークショップを開催。理解を深める機会を設けることで、地域の皆さまの想いが継続されるよう努める。地域の皆さまと連携しながら、子どもたちに親しんでもらえる安心・安全な施設を目指す。

地域サポート報告



（小山田中学校前）
横断歩道の白線補修



（山崎町レオネクスト三愛前）
ソフトコーンと反射鋲設置

山下てつや YAMASHITA Tetsuya

市議会公明党幹事長
公明党町田総支部 都市農業対策部長

昭和40年、東京都生まれ。青山学院大学経営学部を卒業後、新東亜交易株式会社に勤務。平成18年、町田市議会初当選。妻と2男1女の5人家族。モットーは「現場第一・対話第一」。下小山田在住。

